



# 中西だいすけ

<http://www.daisuke-nakanishi.net/> メール daisuke.nakanishi@gmail.com

濃密に過ぎた3年半

4期目も最終年となり、市議会議長会から15年表彰を頂いたことは、皆さまからのご支援のおかげと感謝致しております。

ここまで3年半は、新型コロナ禍の中、1年ごとに全効力で課題に取り組みました。そのうち約2年半は一人での活動となり、議会での活動の中で辛酸をなめることが多くありました。しかし、変わらず取り組んでいることは、議案を読み込み意見をし、議決に臨むことと、お聞きした意見を行政に伝え、改善に取り組むことで初心を忘れず活動を続けてきました。

残り任期で取り組む課題は山積していますが、より良い鈴鹿市になるよう取り組んでいます。

今期を振り返つて  
「コロナ禍の中でも初心を忘れず活動



## 若い世代の参画

1年目は、三期目の最終年に開催された高校生議会を実現することに力を入れ、市内4校で高校生と議会との接点を実現できました。

議会と若者が接点を持つ意義を実感できたのですが、自分が議会内で動きを取ることが難しくなり、議論に加わる心残りです。

4年目となる今期は、地域福祉常任委員会にて行政を取り組んでいます。それは「地域づくり」「子どもの権利」、「重層的支援体制の構築」など重要な政策を取り扱う委員会であり、予算や決算審査を通して行政をチェックすることが重要と考えたからで、方向性は間違つていませんでし

3年目は、一人でいることで受け理不尽な扱いに我慢ができない、自分の考えを全員に声をかけて頂き、会派「市民の声」に合流することになりました。

合流するところから議会定数に関する勉強会への参加、その後は、会派で市財政に関する勉強会や、近隣市議員や市職員、インターン生や高校生と「シミレすずか」の体験勉強会や、会派報告会の実施など、議会内の活動も含め変化がありました。

一方で、議員として活動してきたつながりから、多くのオンライン勉強会に参加できました。テーマは、子ども支援研究会、ひとり親家庭、医療的ケア児、子ども基本法など福祉関係を中心でしたが、自治体のDXやeスポーツなども学びました。議員主催の勉強会も多く、先進的な知識を得られることはもちろん、他のまちの意見などを聞くことを通じて、多面的に考えることができました。



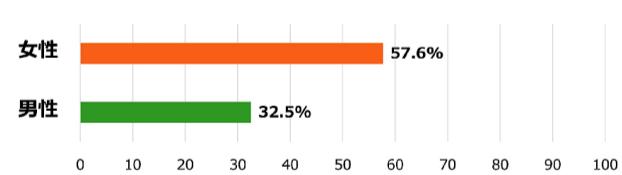
## オンラインで学び

コロナ禍での学びですが、現地に赴いての行政視察や研修については、ほぼ2年間ありませんでした。ですので、期間中の政務活動費は、全額返還としています。

一方で、議員として活動してきたつながりから、多くのオンライン勉強会に参加できました。テーマは、子ども支援研究会、ひとり親家庭、医療的ケア児、子ども基本法など福祉関係を中心でしたが、自治体のDXやeスポーツなども学びました。議員主催の勉強会も多く、先進的な知識を得られることはもちろん、他のまちの意見などを聞くことを通じて、多面的に考えることができました。

## 内閣府でも取組が進む

内閣府男女共同参画局が、地方議員を対象に、政治参画を阻む要因を調査した結果、議員活動や選挙活動中に、有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたかという質問に対して、全体の42.3%、男性の32.5%、女性の57.6%がいずれかのハラスメント行為を受けたと回答しています。



普通に議会で議員の仕事をしたい  
理不尽な扱いは実際に  
なんのための理不尽?  
象徴的だった一言は、土屋氏の「普通に議会で議員の仕事がしたい」でした。  
行政から出ている議案や各種計画を読み込み、行政に意見したり、議決に臨むことが議員の仕事の本質です。疎ましいからと、それに圧力をかける理不尽な扱いは、誰のためなのでしょうか。その思いを共有できた研修でした。

登壇者は、判例変更を勝ち取った元岩沼市議の大友氏をはじめ、湯河原町議の土屋氏、前松戸市議の山中氏、日高氏で、ご自身に出された懲罰

登壇者は、判例変更を勝ち取った元岩沼市議の大友氏をはじめ、湯河原町議の土屋氏、前松戸市議の山中氏、日高氏で、ご自身に出された懲罰

登壇者は、判例変更を勝ち

ました。

登壇者は、判例変更を勝ち